

情報通信審議会 情報通信技術分科会  
技術戦略委員会 社会実装加速化WG（第4回）  
議事概要

第1 開催日時及び場所

令和7年2月18日（火）15時00分～15時50分

於、Web会議による開催

第2 出席した構成員（敬称略）

平田 貞代（主任）、上原 哲太郎、柴藤 稔、岡崎 直觀、尾辻 泰一、立本 博文、富田 章久、盛合 志帆

第3 出席した関係職員

(1) 総務省

内田 雄一郎（技術政策課企画官）

平野 裕基（技術政策課課長補佐）

第4 議題

(1) 論点整理（案）について

(2) 自由討議

第5 議事概要

(1) 論点整理（案）について、事務局から資料4－1に基づき説明があった。

(2) 自由討議では主に以下の意見が挙げられた。

- 人材の確保が一番大事。インセンティブの設計が上手くいっていないことによる  
人材不足は様々な影響を及ぼしている。
- 資料p.14のNICTの研究資金配分機関としての機能の強化について、誰がどのような  
目利きで投資判断をするのかといった、戦略的な投資判断のための司令塔機能

を意識したほうが良い。

- 資料p. 16の人材育成について、グローバルな人材交流を強化することが必要。グローバルな研究開発のエコシステムの中にうまく入り、グローバルな情報交換のネットワークを構築していくことが重要。
- サイバーセキュリティに関して、従来の境界型のセキュリティでは立ち行かなくなるため、AIを利用した攻撃に対抗するためにも、AIによる防御が必要であり、その技術動向に注目する必要がある。欧州でのAI 法の動きもあるため、政府と連携して取り組むことが極めて重要。
- 資料p. 15に「大学・企業と初期段階から連携し」とあるが、その初期段階をどう見極めて連携するのか、また「組むべきパートナーを見極めた上で」とあるが、どう戦略的に連携していくのかが重要。
- 資料p. 13にあるAIの安全性や倫理に関する議論について、頑張っていただくことを期待。
- これまで国際標準化やスタートアップ支援についてコメントしたところ、資料p. 17の標準化自体を目的としないという記載や、資料p. 18の成果活用型出資制度の連携にかかる記載は意図が反映されており、よく取りまとめられている。
- 資料p. 13にあるイノベーションハブ機能の強化について、NICTが技術のハブとしての機能を強化することが重要。これにより、スピルオーバーが広がることを期待。
- 資料p. 18について、イノベーションのスピルオーバーを支えるために制度的なサポートが重要。特に、スタートアップによるイノベーションの社会実装が促進されるよう、インセンティブが付与されることが重要。
- 資料p. 17の標準化人材について、標準化は非常に重要なが、NICT以外の主体が頑張るのは難しい状況になりつつあり、NICTが標準化活動の推進や人材育成の支援等を行う重要性がより強くなっていることから、NICTの役割として重視されるべき。
- 役割が多岐に渡る中で、NICTのリソースをどのように配分して具体的に取り組んでいくかは難しい課題。資料p. 13の「テストベッド」と、資料p. 14～15の「橋渡し」は深く関係しており、テストベッドを技術のショーケースとして使い、ユー

ザーの声を取り込んで高度化し、社会実装につなげることが重要。

- NICTが、研究資金配分機能と研究開発機能を併せ持つことは非常に重要。自主研究から見出された知見を有し、目利き力を持った人材の育成も期待できる。
- 資料p. 16の技術移転等に関する専門人材について、標準化や研究開発成果の社会実装をサポートする人材が輩出されにくい状況があるため、研究者からそうした人材が育つことは望ましい。NICTの中で、サポート人材がキャリアアップできる体制を作ることが重要。
- 社会実装の加速に関してこれまでと大きく異なる点に、NICTがファンディングエンジニアになったことがある。適切な投資判断のため、研究開発を通じて培った知見を活かしていくことが重要。
- NICTにおけるグローバルな人材交流はコロナ禍以前よりも増えてきている。GPAI 東京専門家支援センターの設置やAIセーフティ・インスティテュートの設立もあった。このような拠点をイノベーションハブとして、役割を果たしていくことが期待される。
- NICTの役割として、イノベーションハブ機能から、アントレプレナー育成、研究と社会実装の推進までが明確に示されることになり、その取組に大きく期待している。今後、これらの役割をより広く伝え、アクションをますます増やし、循環させていくことが期待されるところ、NICTにおける考えがあれば伺いたい。
  - 様々な観点があるが、例えば、Beyond 5G基金事業では、NICTの知見を生かして課題設定に貢献することと共に、透明性の確保策についても検討している。テストベッドについては、上位レイヤーまで発展させる必要がある。スタートアップ支援では、NICT研究者による起業の拡大方策を検討している。サイバーセキュリティはグローバルな視点で進め、国際標準化については人材育成とビジネスにつながるように取り組むべきと考える。
- 人材の育成・確保が非常に難しくなっている中で、NICTにおいて、研究に専念し、アウトリーチやベンチャー立ち上げにも取り組む優秀な人材を集めることは難しい課題と感じる。インセンティブ付与の仕組みが重要。在籍スタッフのフォローアップや待遇改善など、NICTで活動したいと思ってもらえる基礎的な仕組みを構築する必要がある。

- 人材育成・確保について、企業との連携を考えた際に、例えば、NICTと企業や大学に同時に在籍可能とするなど、人事制度をもう少し柔軟に運用することで人材交流を促進できたらよい。

以上